

震災後からいち早い復旧

本宮第二中学校

待望の校舎完成

東日本大震災で甚大な被害を受けた本宮第二中学校。その待望の新校舎がついに完成しました。校舎建て替えては、県内で一番早い完成になります。鉄筋コンクリート造3階建て、延べ床面積3750平方メートルの校舎は、震災に強い学校をコンセプトに、耐震強化、ソーラーシステムの導入などに力を入れて作られました。8月には仮校舎からの引っ越しが行われ、全校生徒285人は、二学期からこの新しい校舎での学校生活をスタートさせました。



◆問い合わせ先
教育総務課 教育施設係
(内線246)

コンセプトは
「震災に強い学校」



木のぬくもりを感じる

校舎の内装に杉板を使うことで校舎全体が雰囲気も明るく、木のぬくもりを感じるデザインになりました。



生徒増にも対応可能

みずきが丘住宅団地の分譲などにより、今後生徒数増加が見込まれます。南校舎には2教室分の増築可能ブースを設け、将来に対応します。



多目的スペースの確保

1階は多目的教室、2階に多目的ホールを、2階、3階にはオープン型の多目的スペースを設置し、学校行事やチームティーミングなどの多様な指導方法に対応します。



太陽光発電システム

北校舎南校舎ともに、屋根一体型の太陽光発電システム(40kw)を設置しました。CO₂削減などの環境対策に寄与するとともに、災害などの停電時でも校舎に電気が供給できます。



耐震性能を高めた設計

柱の太さ、部材を大きくすることで、揺れに強い校舎を目指しました。また、地中に40メートル級の杭を打ち、震災に耐えうる強度を確保しました。